

2019 年 登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格認定試験

二次試験（その 2） 問題・解答用紙

注 意 事 項

- ① 二次試験（その 2）は、No.3、No.4、No.5 の 3 問で、解答時間は 3 時間15分（195分）です。
- ② 問題用紙（下書き用紙含む）は、No.3 が 2 枚、No.4 が 2 枚、No.5 が 2 枚で合計 6 枚です。
解答用紙はNo.3 が 1 枚、No.4 が 1 枚、No.5 が 1 枚で合計 3 枚です。
- ③ 問題は全問必須ですから、3 問すべてに解答してください。
なお、配点はNo.3 が20点、No.4 が20点、No.5 が20点で、60点満点です。
- ④ 解答用紙の全ページに受験番号をご記入ください。
- ⑤ 問題用紙、解答用紙はのり付けを切り放して使用してください。
- ⑥ 解答は、解答用紙に黒の鉛筆、シャープペンシル、またはペン等で記入してください。
下書き等に色を使用してもさしつかえありませんが、色を使った表現を解答した場合はその表現はすべて採点対象外となります。また、下書き用紙への記述はすべて採点対象外です。解答は解答用紙のみ記入してください。
- ⑦ 問題用紙の余白、下書き用紙は、計算等に使用してもさしつかえありません。
ただし、解答用紙には、計算等解答に関係のない記述はしないでください。
- ⑧ なお、二次試験（その 2）は、No.3、No.4、No.5 のそれぞれの採点結果を合計して評価いたします。
いずれかの採点結果が著しく低い場合は合格に至らない場合があります。
- ⑨ 試験終了後は、解答用紙をページ順に並べ、机の上に置いてください。係員が回収するまでそのままお待ちください。
- ⑩ 問題用紙は、試験終了時刻まで在席した方のうち、希望者に限り、持ち帰りを認めます。
途中退席した場合は、持ち帰ることはできません。

No. 3造成・排水設計図を作成しなさい(配点：20点)

■出題テーマ

☐ バリアフリー園路の設計と駐車場の雨水浸透型排水設計

■課題

設計対象地は、自然公園内の湖沼に隣接する展望地で、周囲の山々とともに棚田跡地があり、優れた景観を形成している。近年、来園者が増えており右図のような休憩所、水辺テラス、駐車場を整備することとなった。

下記の条件を読み解き、園路設計及び、造成、雨水排水に関する課題について平面図を作成しなさい。また、設定する雨水浸透貯留施設の概要と期待する効果を解答用紙に記述しなさい。

■敷地および環境条件

☐ 敷地内の既存樹木や棚田跡地の保全が整備の与条件となっている。

☐ 雨水浸透貯留施設の整備が与条件となっている。

☐ 計画対象地の駐車場南側には最終枿が整備され、周遊道路に敷設されているU型側溝枿に接続済みである。

1. 園路設定と造成に関する課題

☐ 下記の条件を満たす園路設計と造成設計をしなさい。

■設計条件

☐ 大型バス駐車場入り口（A）から休憩所（B）を結ぶルートと、主要園路途中（C）から水辺テラス（D）を結ぶルートにバリアフリー園路を設け、凡例に基づき図示すること。尚、園路は以下の条件を満たすこと。

・幅員：1.8m ・縦断勾配：5％以下 ・高低差0.75m毎に長さ1.5m以上の平坦部を設けること。

☐ 現況樹木はすべて保全すること。

☐ 擁壁またはこれに類する構造物は設けないこと。

☐ 園路の表記は、以下の通りにする。

平坦部には、仕上げ高（○.○○m）を小数点第2位まで記入する。

改変する造成地形の表記は、計画等高線を実線で記入する。尚、改変した地形の勾配は1：2.0以内とする。

2. 雨水排水に関する課題

☐ 下記の条件を満たす雨水排水設計をしなさい。

■設計条件

☐ 設計範囲は、新設される駐車場集水域とし、必要な雨水浸透貯留施設を凡例に基づき図示すること。

☐ 雨水浸透貯留施設にて貯留した雨水は、最終枿を通じて道路U型側溝枿に排水すること。

なお、雨水浸透貯留施設は、以下の条件を満たすこと。

・浸透トレンチ：40m以上 ・遊水池（深さ0.5m）150㎡以上

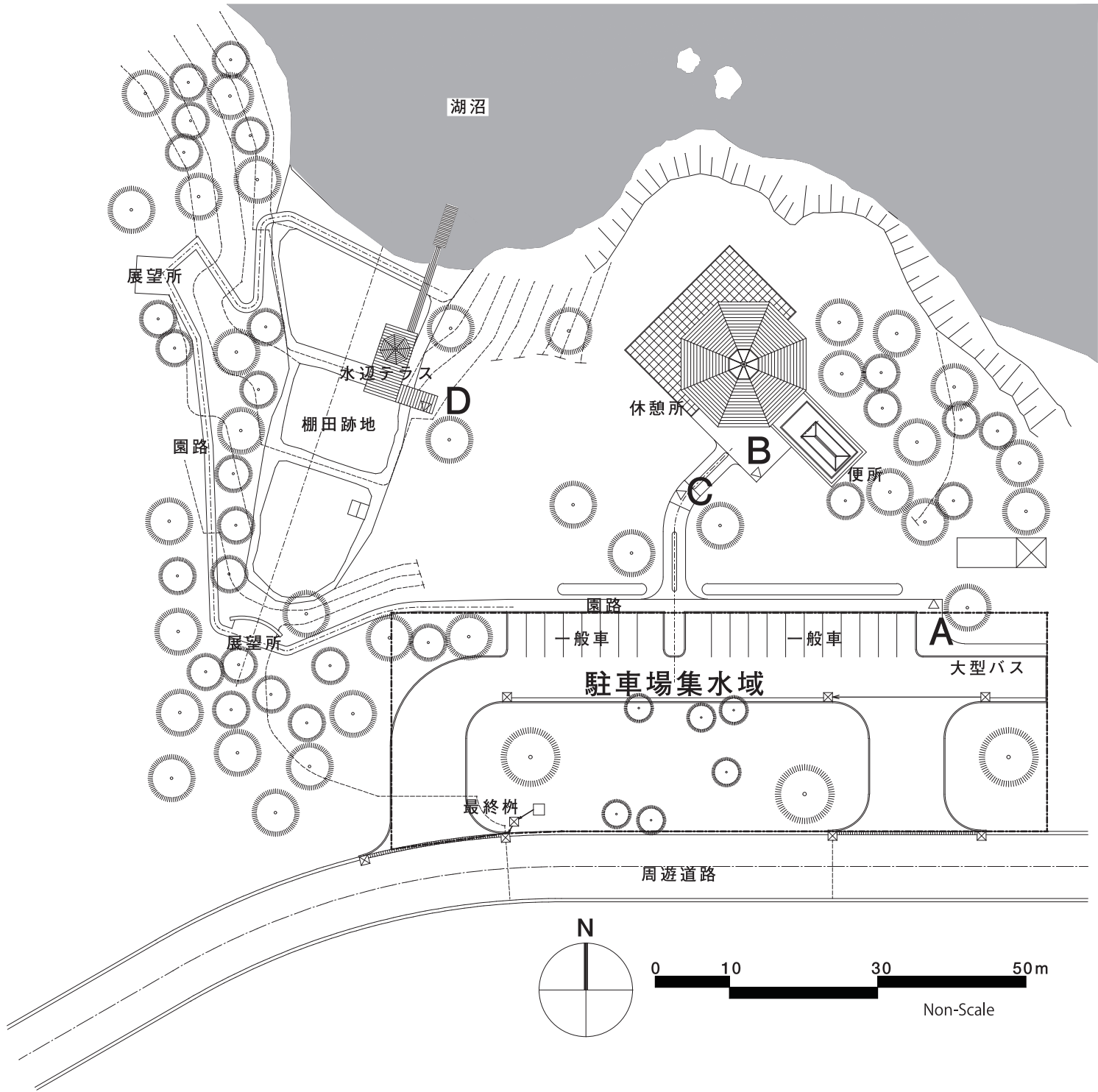
☐ 計画する雨水浸透型排水施設の概要と、期待する効果を記述すること。

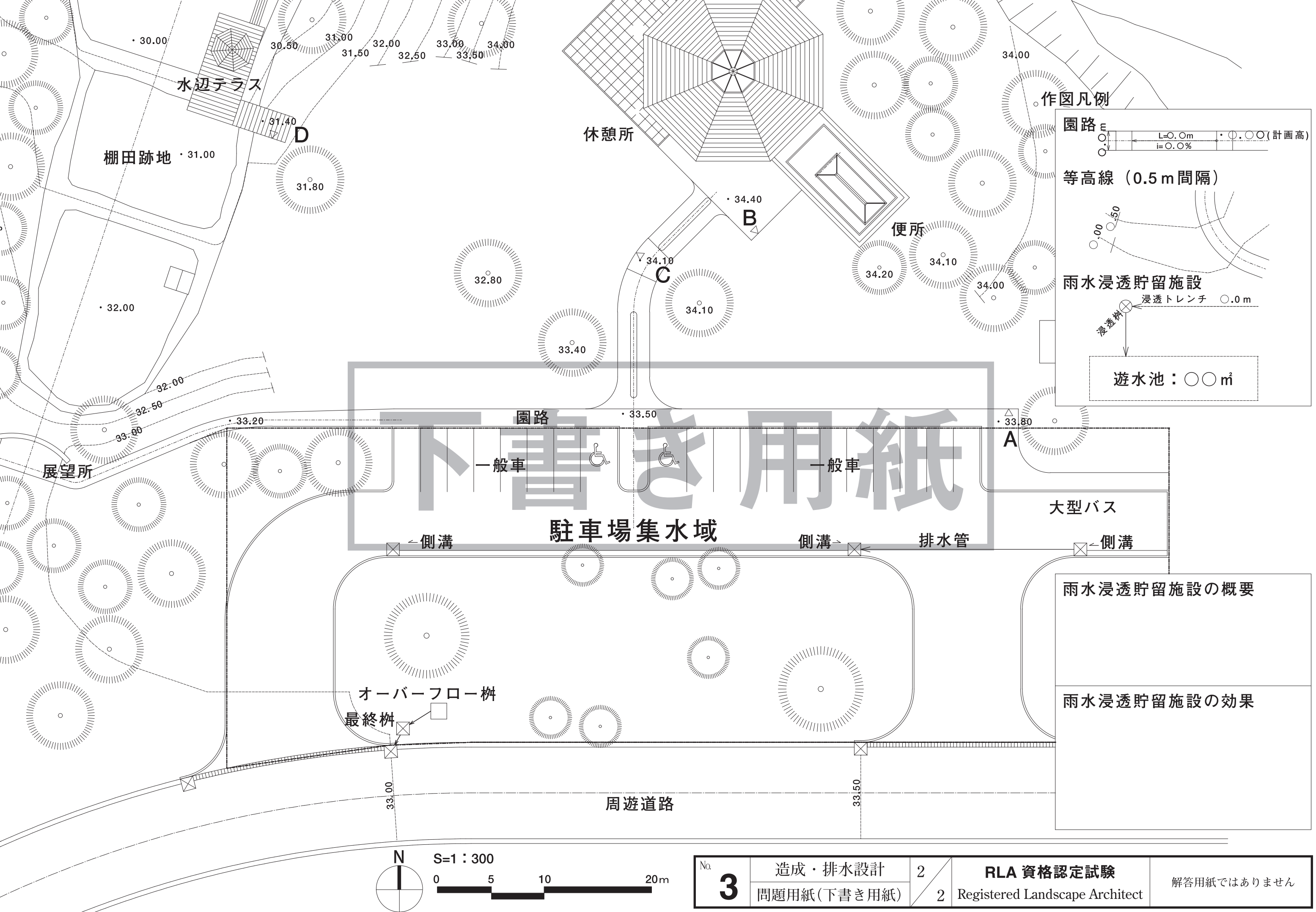
3. 留意事項

☐ 設計する内容は凡例に従って表記すること。

☐ 図面表現を工夫し、解りやすく見やすい図面とすること。

■設計対象地全体図





作図凡例

園路
E
L=0.0m
i=0.0%
○(計画高)

等高線 (0.5 m 間隔)

雨水浸透貯留施設

浸透トレンチ 0.0 m

遊水池: 00 m²

雨水浸透貯留施設の概要

雨水浸透貯留施設の効果



S=1 : 300



No.

3

造成・排水設計

問題用紙(下書き用紙)

2

2

RLA 資格認定試験

Registered Landscape Architect

解答用紙ではありません

No. 4 植栽設計図を作成しなさい

(配点：20 点)

■出題テーマ

□都市公園に整備する飲食・交流施設周辺部の植栽設計

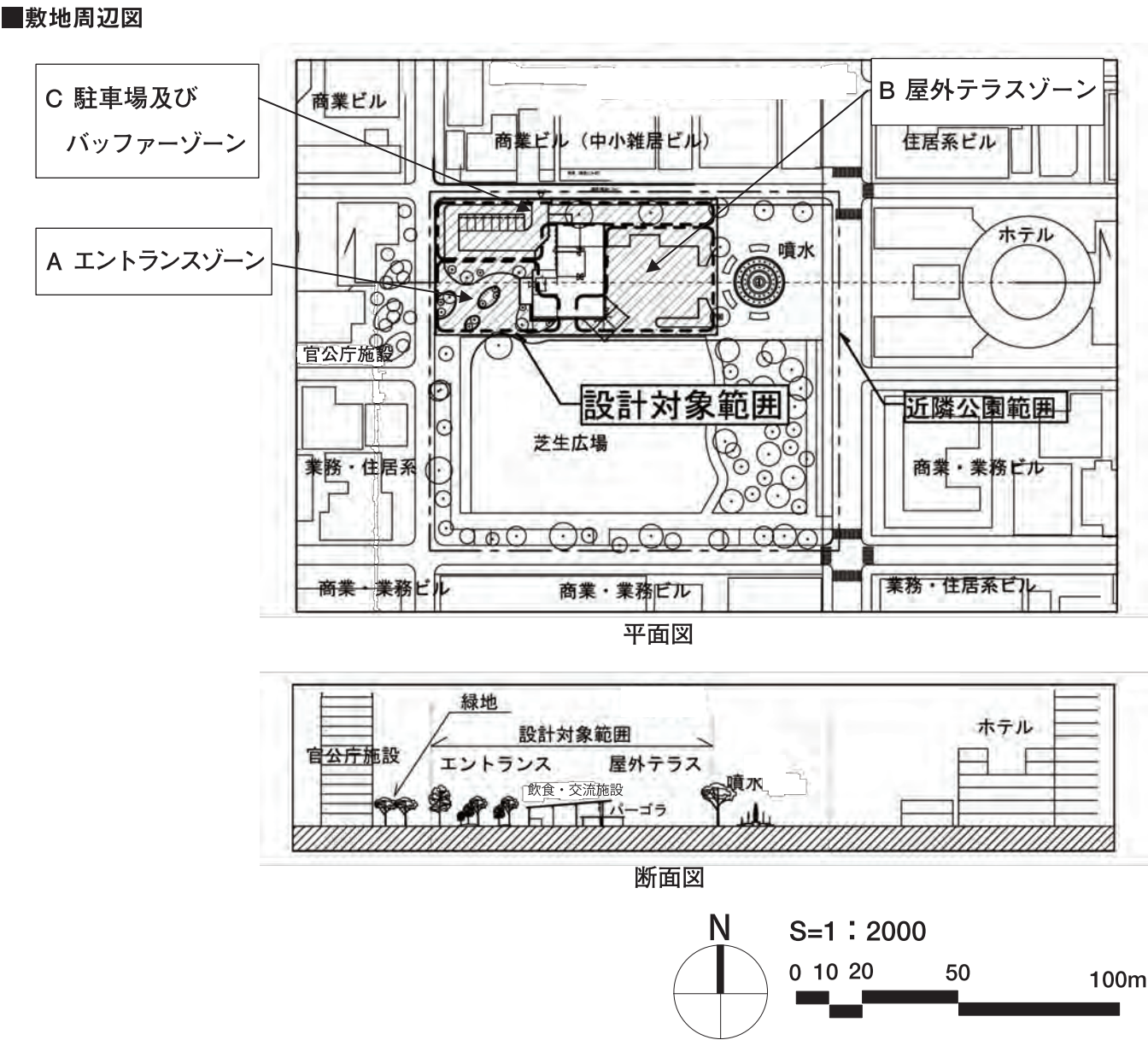
■課題

ビジネス街に位置する近隣公園（約1.3ha）の一部に、新たに飲食・交流施設（レストラン、地域交流ギャラリー等）が整備される。これに伴う植栽設計について、敷地条件、設計条件、解答における留意事項を踏まえ、植栽設計の考え方を示し、植栽設計図を完成させなさい。

1. 設計にあたり、解答用紙の設計対象地域に示す6地域の中から、あなたが設計を行う地域を一つ選び、選択する地域の枠内に「✓」を記入しなさい。

2. 設計対象となる3つのゾーンについて植栽の設計方針を記述しなさい。

3. 3つのゾーンについて、設計条件に従って植栽設計図を作成（エントランスゾーンは作図済）し、凡例に植栽樹種と形状寸法を記入しなさい。



■敷地条件

□新設される飲食・交流施設（レストラン、地域交流ギャラリー等）は1階建てで、屋外テラスゾーン側にパーゴラが設置されている。

□飲食・交流施設や屋外テラスでは、近隣住民以外にもビジネス街から昼食時や夕方以降の利用が見込まれる。

□対象地の東側には円形の噴水があり、既設ホテルのエントランス広場と共有する空間を構成している。

■設計条件

A. エントランスゾーン

□飲食・交流施設のエントランスにふさわしい空間とし、隣接する官公庁施設前の「郷土の樹種と景観をコンセプトとした緑地」との連続性と、四季の演出を図った修景効果の高い植栽とすること。

□図中に表記された高木又は中木3種（A1～3）、低木又は地被類3種（A4～6）について、樹種名と形状寸法を凡例表に記入すること。

B. 屋外テラスゾーン

□屋外テラスはオープンカフェとして計画されており、休憩や飲食などの利用にふさわしい空間とするため、テラス部分にも植栽を行うこと。

□屋外テラスから東側噴水やホテルのエントランスへのビスタを確保すること。

□テラス部分及び植栽地に植栽する高木又は中木3種（B1～3）、低木又は地被類1種（B4）、パーゴラへのつる性植物1種（B5）を設定し、図中に表示するとともに、樹種名と形状寸法を凡例表に記入すること。

C. 駐車場およびバッファゾーン

□公園北側に面する緑地帯には30年経過した既存樹があることから、既存の樹木を活かし、修景、遮蔽及び安全等に配慮した植栽を行うこと。

□既存樹（C1）は郷土種とし、その樹種名を凡例表に記入すること。

□植栽地内に植栽する高木又は中木3種（C2～4）、低木又は地被類4種（C5～8）を設定し、図中に表示するとともに、樹種名と形状寸法を凡例表に記入すること。

■解答における留意事項

□植栽設計図に図示する植栽は、解答用紙に記載された凡例記号に従って記入すること。

また、図中に表示する樹木の大きさ（枝張り）は、植栽から5年後程度を想定して表現すること。

□植物の名称は和名、または学名で記述すること。

□形状寸法は市場性に配慮し、植栽時の寸法を記入すること。

□条件や留意事項に記載のない施設や植栽を表現しても良いが、採点の対象外とする。

No. 4	植栽設計	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	
	問題用紙	2		

A：エントランスゾーン

記号	区分	樹種名	形状寸法(m)		
			H	C	W
A1	高木・中木				
A2	高木・中木				
A3	高木・中木				
A4	低木・地被				
A5	低木・地被				
A6	低木・地被				

設計方針：

B：屋外テラスゾーン

記号	区分	樹種名	形状寸法(m)		
			H	C	W
B1	高木・中木				
B2	高木・中木				
B3	高木・中木				
B4	低木・地被				
B5	つる性植物				

設計方針：

C：駐車場及びバッファゾーン

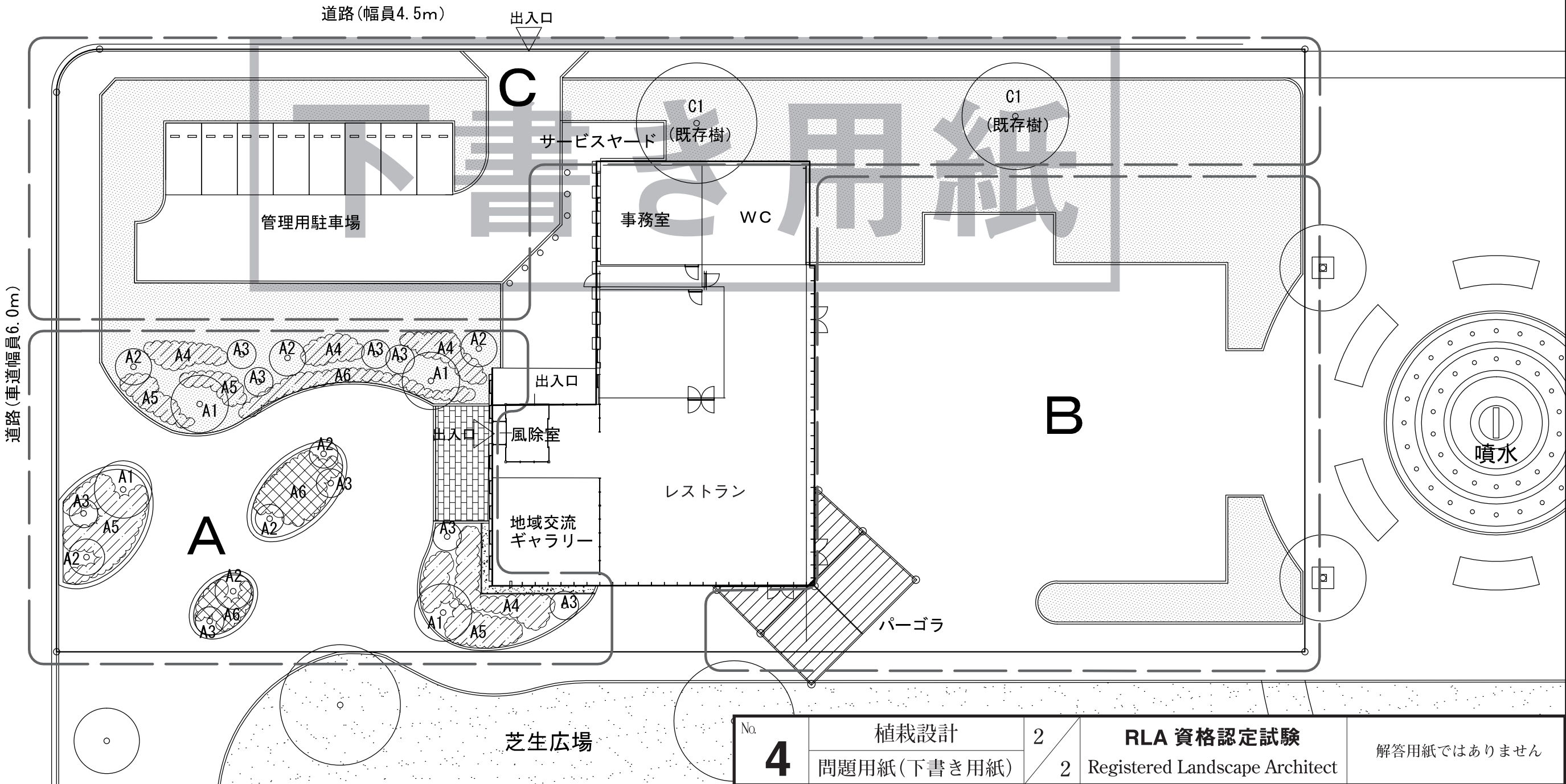
記号	区分	樹種名	形状寸法(m)		
			H	C	W
C1	既存樹		—	—	—
C2	高木・中木				
C3	高木・中木				
C4	高木・中木				
C5	低木・地被				
C6	低木・地被				
C7	低木・地被				
C8	低木・地被				

設計方針：

選択する地域

☐北海道 ☐東北・北陸 ☐関東・中部
☐近畿・中国 ☐九州・四国 ☐沖縄

S=1：300



No.

4

植栽設計

問題用紙(下書き用紙)

2

2

RLA 資格認定試験

Registered Landscape Architect

解答用紙ではありません

No. 5

詳細図を作成しなさい

(配点：20 点)

- 出題テーマ
- ☐視覚障がい者に配慮した公共施設入口への導入部と階段の設計

■課題

設計対象地はコンサートホールを備えた大規模公共施設の入口部である。隣接する歩道から建物の入口に至る導入部を整備することとなった。建物全体ではバリアフリーが徹底され、当該入口部についても、特に視覚障がい者への対応が求められている。

こうした状況を踏まえ、右図に示す設計箇所の平面図及び断面図を作成しなさい。

- 敷地条件
- ☐隣接街路の歩道はインターロッキング舗装で、建物脇の入口テラスはコンクリート舗装であり、どちらも歩行者対応の断面構成である。
- ☐入口テラス（高さ54.59）と歩道（高さ54.02）とでは57cmの高低差があり、階段にて対応する。
- ☐階段両側の袖壁には、それぞれ手摺が設けられている。
- ☐設計箇所内の雨水は、隣接する歩道側に流出しないよう、歩道際に横断側溝が設けてある。

- 設計条件
- <平面図>

☐以下の内容を図示すること。

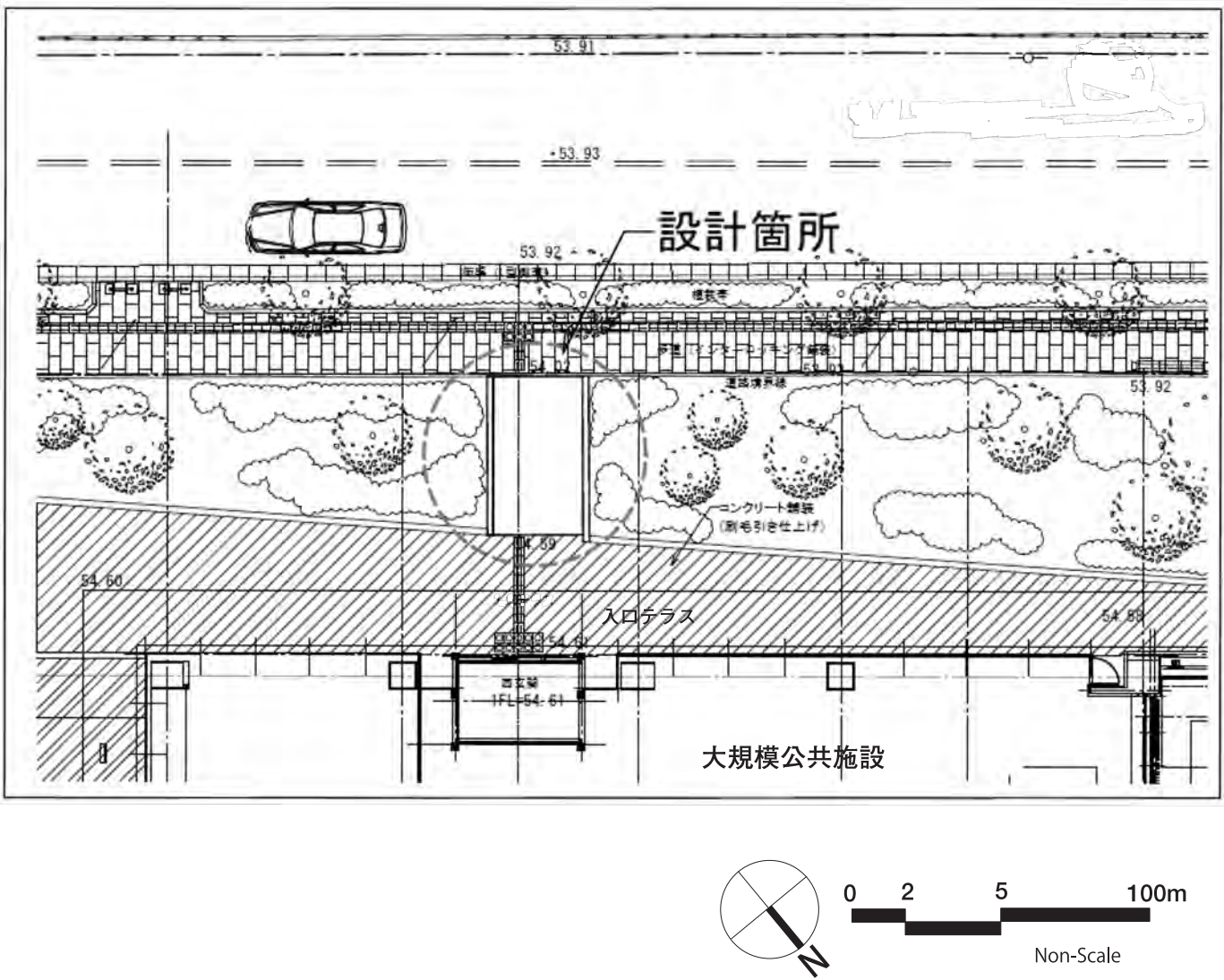
コンクリート階段、視覚障がい者用誘導ブロック（点状と線状）、コンクリート舗装。
- <断面図>

☐以下の内容を図示すること。

コンクリート階段、視覚障がい者用誘導ブロック、コンクリート舗装。

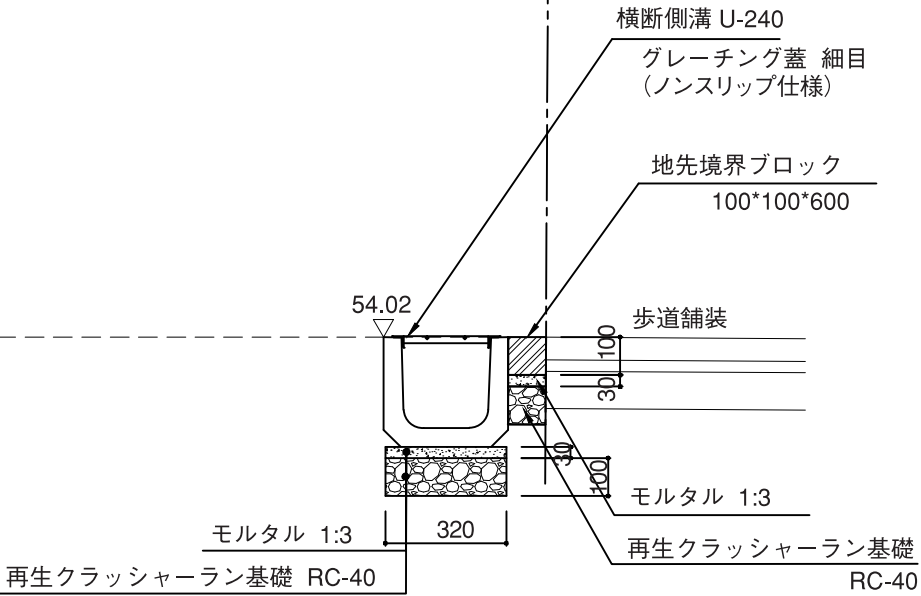
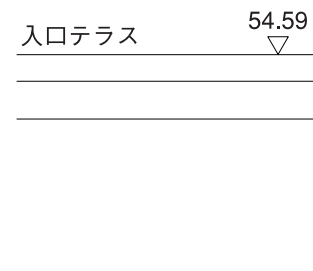
- 解答における留意事項
- ☐舗装構造の決定において、凍結深度は考慮しない。
- ☐全体の構成がわかる寸法、仕上げ高さ、勾配等を明記すること。
- ☐引き出し線を用いて、概算工事費の算出に必要な規格及び材料名称などを明記すること。

■敷地周辺図

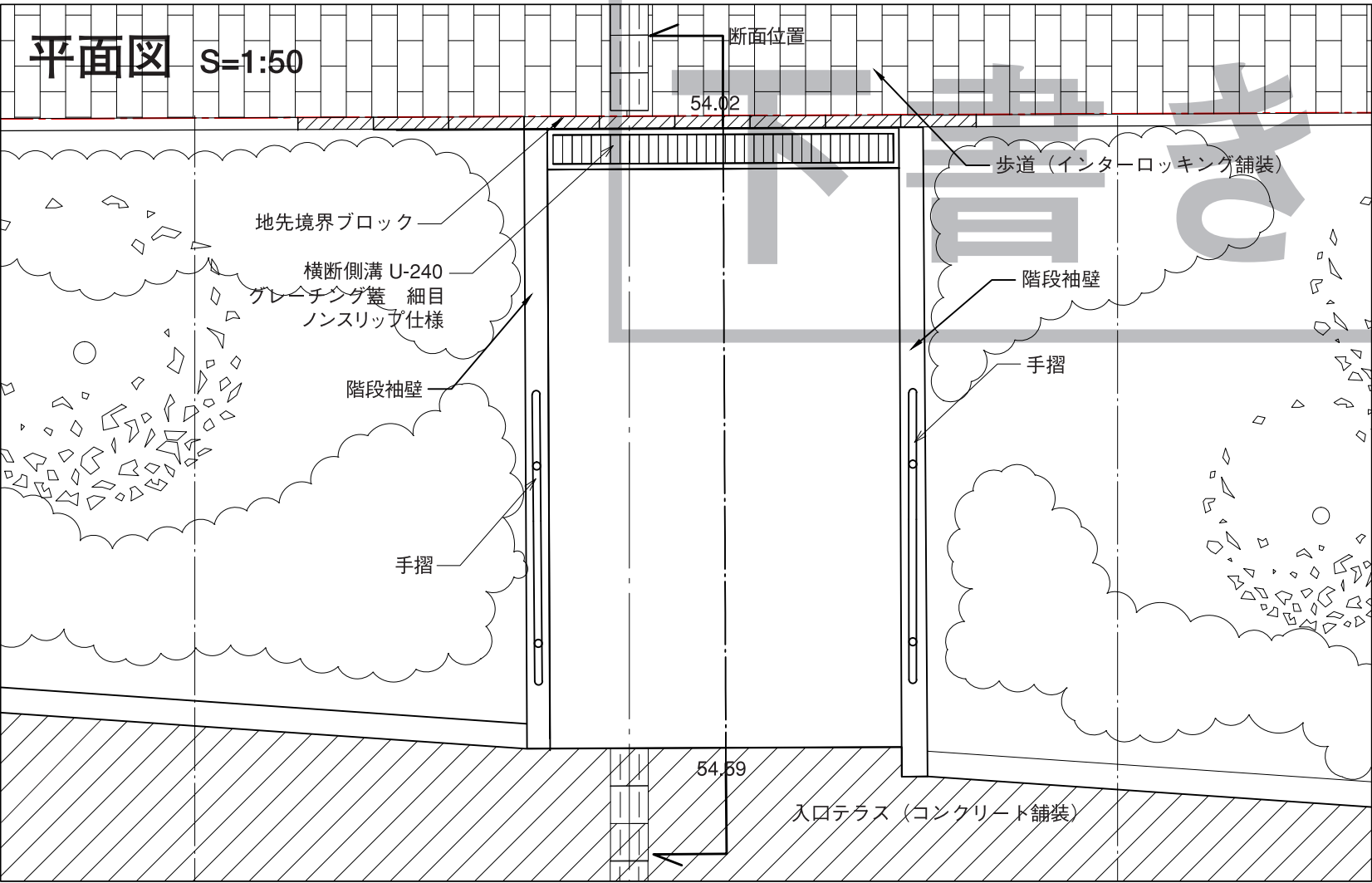


No. 5	詳細図	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	
	問題用紙	2		

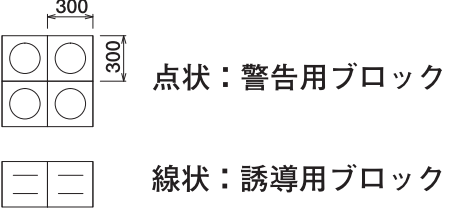
断面図 S=1:20

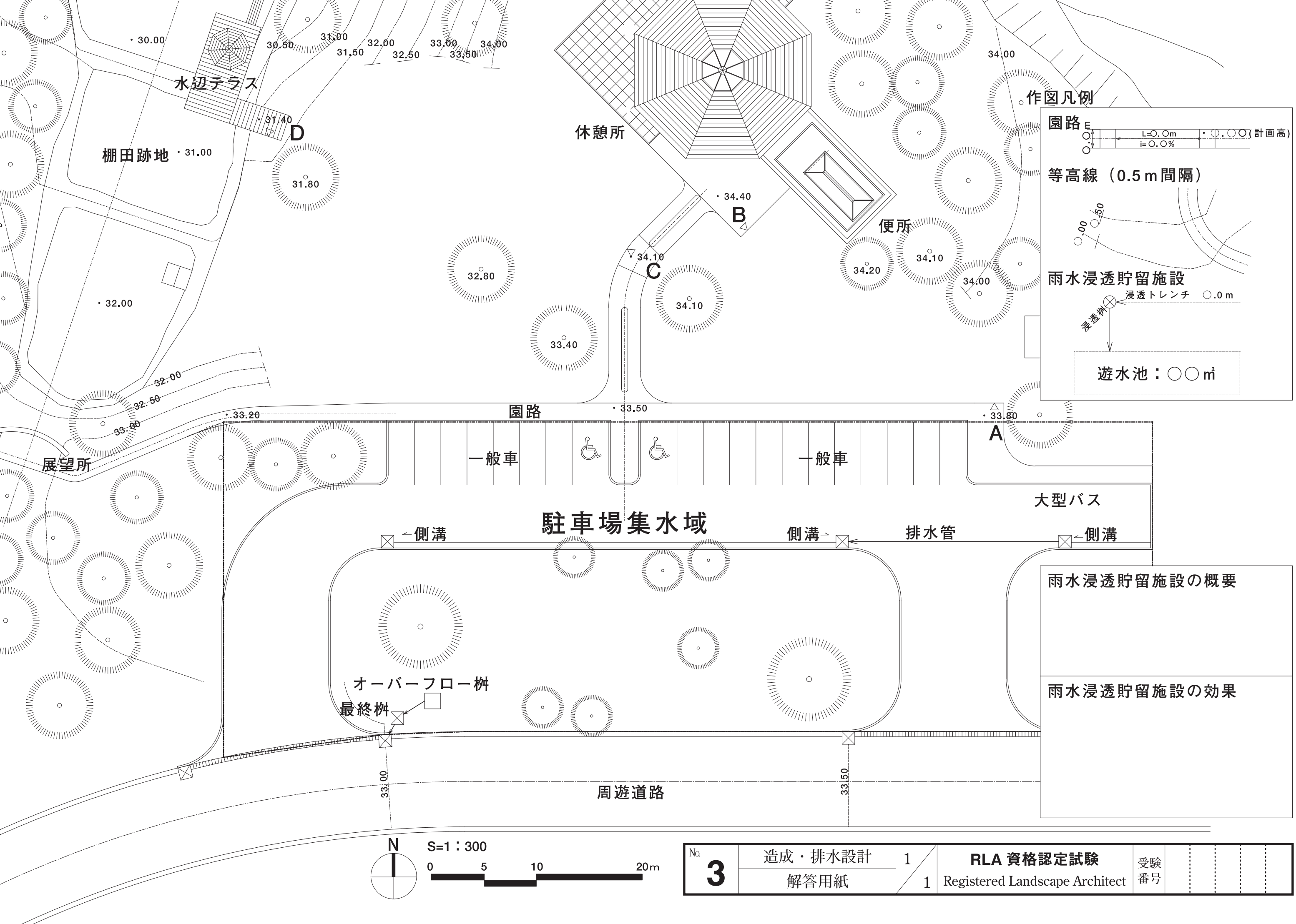


平面図 S=1:50



※ 視覚障がい者用誘導ブロック 凡例





A：エントランスゾーン

記号	区分	樹種名	形状寸法(m)		
			H	C	W
A1	高木・中木				
A2	高木・中木				
A3	高木・中木				
A4	低木・地被				
A5	低木・地被				
A6	低木・地被				

設計方針：

B：屋外テラスゾーン

記号	区分	樹種名	形状寸法(m)		
			H	C	W
B1	高木・中木				
B2	高木・中木				
B3	高木・中木				
B4	低木・地被				
B5	つる性植物				

設計方針：

C：駐車場及びバッファゾーン

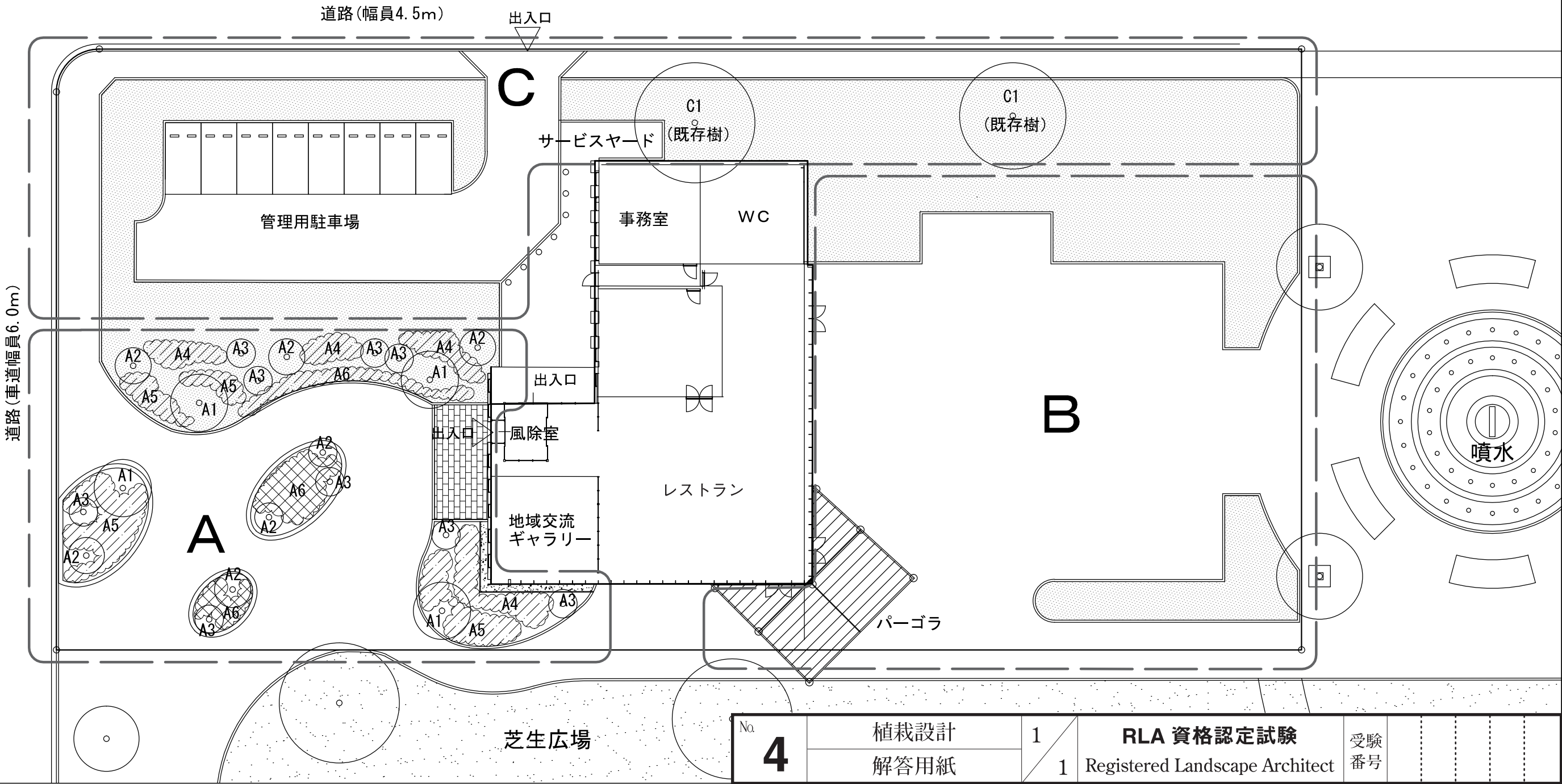
記号	区分	樹種名	形状寸法(m)		
			H	C	W
C1	既存樹		—	—	—
C2	高木・中木				
C3	高木・中木				
C4	高木・中木				
C5	低木・地被				
C6	低木・地被				
C7	低木・地被				
C8	低木・地被				

設計方針：

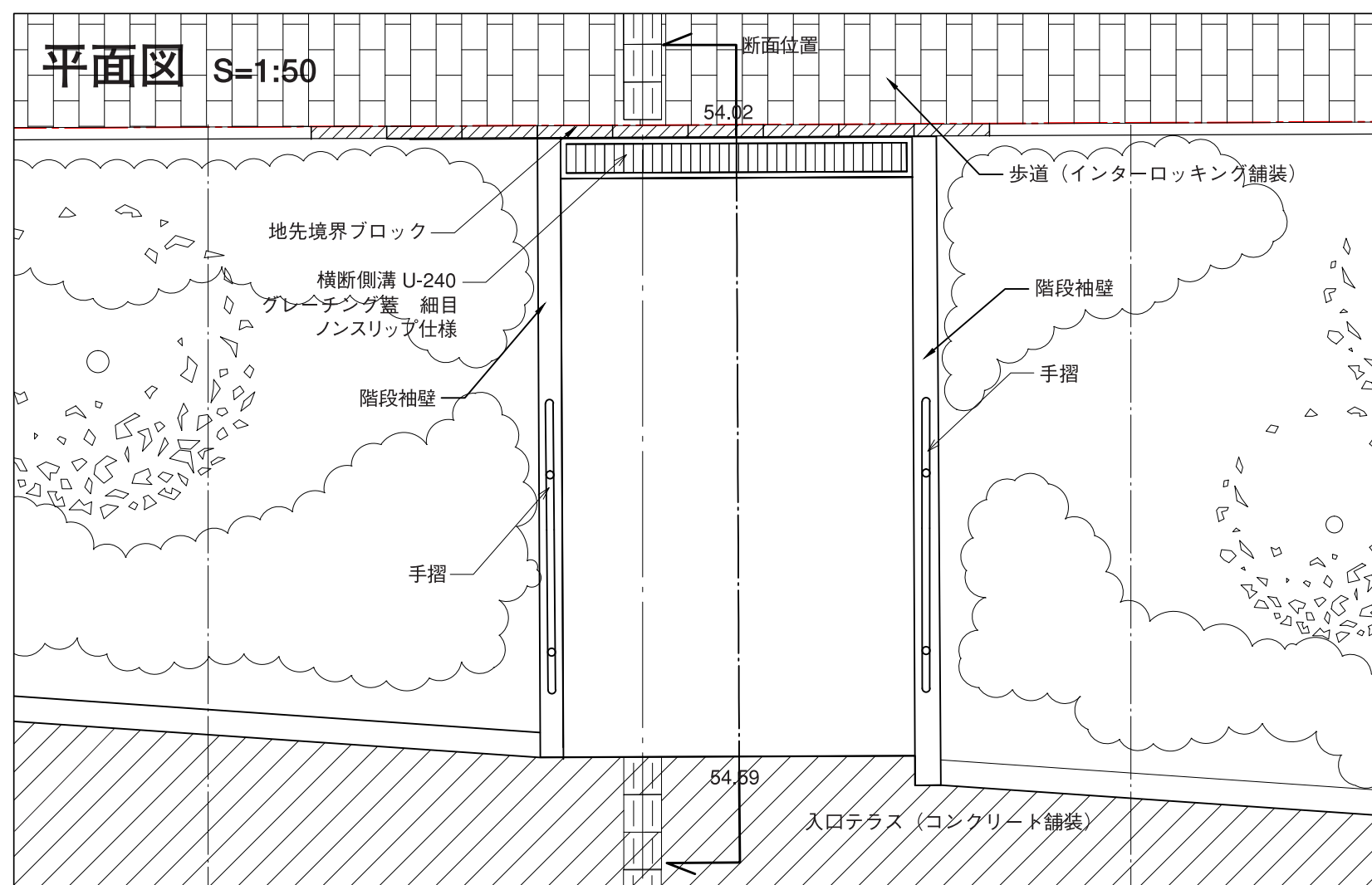
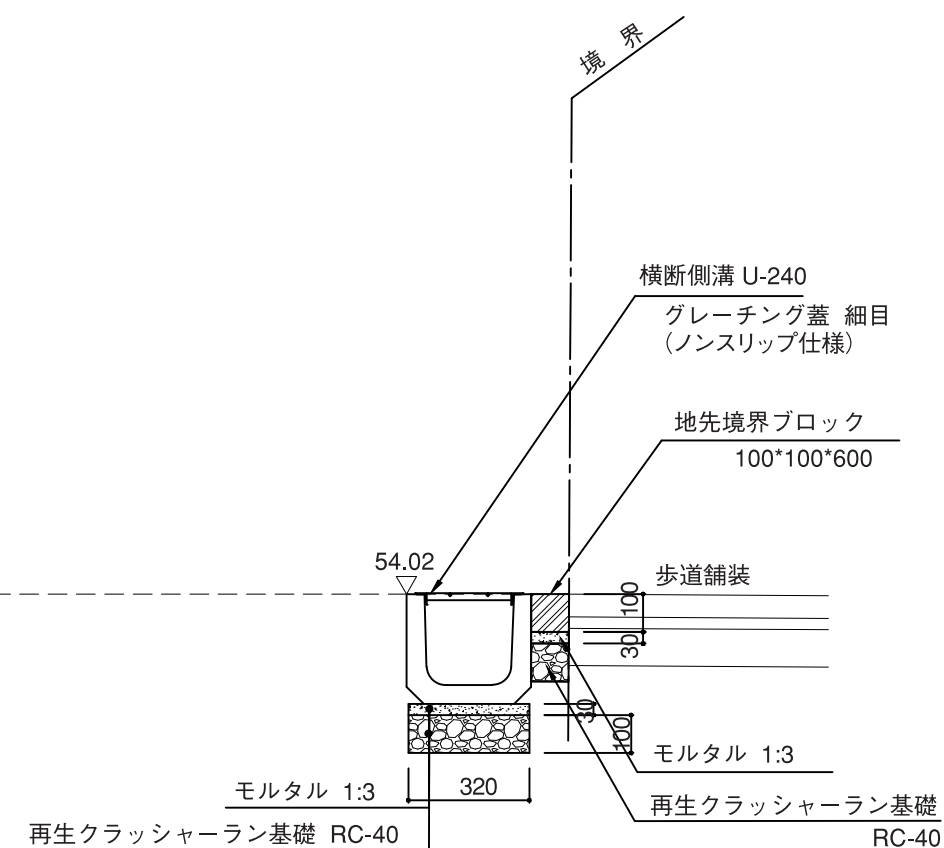
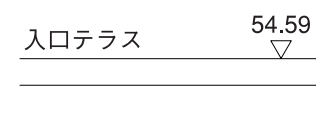
選択する地域

☐北海道 ☐東北・北陸 ☐関東・中部
☐近畿・中国 ☐九州・四国 ☐沖縄

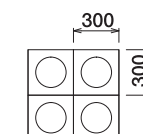
S=1：300



断面図 S=1:20



※ 視覚障がい者用誘導ブロック 凡例



点状：警告用ブロック



線状：誘導用ブロック

No. 5	詳細図	1 1	RLA 資格認定試験	受験 番号					
	解答用紙		Registered Landscape Architect						